



肺がんについて②

わが国における死因の第1位は「がん」です。その中でも死者数の最も多いがんは「肺がん」で、1年間に7万6千人もの方の命を奪っています。そんな怖い病気ですが、多くの人に肺がんについて知っていただくことで、「治る患者さんを増やす」ことができると考えています。そこで、今回は肺がんについてお話しさせていただきたいと思っています。

第二回 肺がんの検査と診断について

肺がんを診断するための検査は、大きく分けて下図にお示した5つになります。

① 胸部レントゲン検査▼健診などでもおなじみの検査で、中学生以上の方は一度は経験があると思います。これが肺がん検査の窓口になります。異常が見つかったと次に行われる検査が胸部CTです。

② 胸部CT▼コンピューター断層写真というもので、レントゲン写真をもとにコンピューターで人間の輪切りの画像を作る検査です。これにより胸部レントゲン検査では分からなかった小さなものを見つけることができます。CTが普及し簡単に撮影できるようになったことで、肺がんだけでなく、他の場所に来たがんも早期に発見できるようになりました。

肺がんが写っている胸部CT写真



Q.がんはどこに写っているのでしょうか?

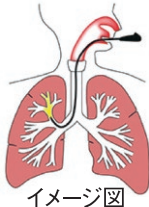


答えはコチラ
(大雄会HP)

③ PET検査▼がんに集まりやすい物質を注射してレントゲンやCTを撮影する検査です。集まっている場合は肺がんの可能性が高いと判断します。また、肺がんが血液を介して他の臓器にできている(これを「転移」と言います)かどうかを判定するためにも用いられます。

④ 喀痰細胞診▼痰の中にがんの細胞がいなければ顕微鏡で調べる検査です。

⑤ 気管支鏡下生検▼細いカメラを空気の通り道である「気管支」に通して、肺がんが疑われる病巣の一部を取り顕微鏡で調べる検査です。



肺がんの検査

- ① 胸部レントゲン検査
- ② 胸部CT
- ③ PET検査

状況証拠

- ④ 喀痰細胞診
- ⑤ 気管支鏡下生検

物的証拠

次回は肺がんの治療についてお話しさせていただきます。

①〜③の検査で「状況証拠」を固めて、④と⑤で「物的証拠」をそろえて肺がんの診断を確定するのが一般的です。



監修

総合大雄会病院 副院長

ぬまなみ ひろき
沼波 宏樹 医師

(主な資格)

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医

地域とつなぐ。未来へつなぐ。大雄会がクラウドファンディングに挑戦!
送迎車【増車】プロジェクトへご支援を。



期間 6/3(月) 11時~7/31(水) 23時
目標金額 600万円
ご支援の使い道 患者さま、ご利用者さま送迎用車両の購入(増車)



詳細はこちら